

令和6年度 特別陳列

やきもの水族館

四日市市立博物館

- ◆会 期 令和6年9月10日(火)～10月31日(木)
 午前9時30分から午後5時

- ◆休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)

- ◆会 場 四日市市立博物館 3階常設展「時空街道」内展覧処「白里亭」
 〒510-0075 四日市市安島一丁目3番16号
 TEL 059-355-2700

◆開催趣旨

四日市市立博物館では、この地域で江戸時代から制作されてきた萬古焼の作品、関係資料の収集を続けています。2013(平成25)年に、当館開館20周年を記念して、株式会社ミヤオカンパニーリミテドからノベルティ商品見本約7,400点の寄贈を受けました。ノベルティはアメリカの家庭で部屋に飾るものとして人気を博し、同社の前身・宮尾商店は20世紀後半に多くのノベルティをアメリカに輸出しました。

四日市で制作されたノベルティは、ハンドペインティングやスプレー技法などで水彩画のような淡い色調やグラデーションが表現されていて、大量生産品でありながらも造形的な美しさが高く評価されてきました。

今回の展示では寄贈品から魚や貝などの水生生物を主題にした置物、食器、壁掛け、花瓶など約70点を紹介します。四日市が生んだノベルティの造形美と萬古焼の多様性をお楽しみください。

なお本展は、当館4階特別展示室にて9月11日(水)から10月27日(日)まで開催の特別展「中村征夫写真展 Magic of the blue ～深遠なる海への旅路～」(四日市公害と環境未来館 主催)と連携した展示です。

◆宮尾陶器のノベルティ

1940～50年代のアメリカの流行を参考にした陶器製の小ぶりな動物や人形、食器、花瓶等が主な製品でした。

ハンドペインティング（手作業の絵付け）やスプレー技法などで、水彩画のような淡い色調やグラデーションが表現されましたが、製造工程に手作業を含むため同じ型の製品でもそれぞれ表情が微妙に異なります。陶器の表面はやわらかい起伏を持ち、温かみのあるまろやかな形が可愛らしさをもたらしています。

◆宮尾陶器のノベルティの歴史

四日市市の株式会社宮尾商店（現在の株式会社ミヤオカンパニーリミテド）が、昭和22年（1947）から昭和34年（1959）まで製作し、アメリカへ輸出した製品で、GHQの統制下では「Made in Occupied Japan」（占領下の日本製）として販売されました。主な取引先として、ニューヨークの大手小売業チェーン「ウールワース・カンパニー」、シカゴの陶磁器輸入販売業者「レフトン・カンパニー」、ニューオーリンズの陶磁器・ガラス製品の輸入販売業者「UCGC（United China and Glass Company）」の3社が挙げられます。

このような販路を通じて、アメリカ家庭に幅広く浸透し、多くの人から愛されるようになりました。現地には熱心なコレクターが存在していて、ファンブックも作られています。

◆展示構成

ノベルティを、「海水魚の世界」「淡水魚の世界」「貝の世界」の3つのコーナーに分けて展示します。壁面にはモデルとなった魚の写真と解説があります。



魚のノベルティ（海水魚の世界）



魚のノベルティ（淡水魚の世界）



貝のノベルティ（貝の世界）



置物



置物とスプーンレスト